

一噌隆之
(能楽師一噌流笛方)
Issou Takayuki

能管

能楽の笛「能管」の音は、実は多くの人に耳馴染みがあります。よくテレビの効果音などで使われるピーツと甲高い笛の音、あれが能管です。ヒシギというその独特の音は空気を切り裂くように力強く、「瀧止」と呼ばれた銘管もあるほどです。

能管は、内部にノドという薄い竹筒を入れて、構造的にわざと音程を崩しています。世界的にも珍しいようで、この構造が幽玄な調べを生み出し、能の雰囲気を一層効果的に演出します。だからこそ、伝承は口伝が基本。「ヲヒャ〜 ロルラ〜」と呪文のような言葉（唱歌）を唱えながら、旋律を覚えていきます。

一本の耐用年数が300年前後。一人の笛方が一生で使う笛は、体力などに合わせて3本位替える程度。需要が限られていることもあり、玄人仕様の笛を作れる職人は全国で数少なく、技術の伝承が課題ですね。



協力:公益社団法人能楽協会

露木幸次(美術・装飾)
Tsuyuki Yukitsugu

映画「男はつらいよ」 寅さんの帽子

小道具の担当として「男はつらいよ」に関わったのは、第8作から。「寅さん」のイメージは、決まっていました。

渥美清さんは、第1作で使用した帽子をととても気に入っていましたが、とうとう穴が開いてしまい、新しい帽子を準備しました。ただ、違和感があったようで、生地を「ワントンの皮みたい」と言っていましたね。生地の厚さやツバの長さにも、こだわりがあったようです。ようやく最初の帽子を作ったメーカーの職人が見つかり、何度か作ってもらいました。フェルトの生地がなくなったときは、織ってもらったこともあります。

被り方や角度にもこだわりがあったようで、鏡で確認しているところを見かけました。てっぺんの前のくぼみも、ご自身で、クセを付けていたように思います。リボンの形も、第1作から変わっていませんから、帽子への思い入れがあったのでしょうか。



所蔵:葛飾柴又寅さん記念館 ©松竹株式会社 提供